

# 営農情報 (水稻)

令和5年8月発行

福岡大城農業協同組合  
南筑後普及指導センター  
久留米普及指導センター

## 1 生育概況

今年は6月下旬から7月にかけて、曇天が多かったため、平年より、草丈は長く、茎数は少なく推移しています。

今後も、ほ場の状況をよく観察し、除草や施肥、防除等、適期作業に努めましょう。

## 2 水管理

- ・茎数が少ない場合でも、中干しは出穂期20日前には終わるようにします。
- ・中干し終了後は間断かん水を行います。なお、中干しが不十分なほ場は、間断かん水の落水期間を長めにとるなど、乾かし気味に管理して下さい。
- ・今後、水が最も必要な時期は穂ばらみ期から穂揃期です。出穂前後1週間は特にほ場が乾かないように、湛水管理とします。
- ・その後は、収穫時期まで根を健全に保つために、間断かん水を行います。

### 台風対策

- ・台風が接近して、強風が予想されるときは、十分に湛水して、稲体の振動を減らします。台風通過後も2～3日間は水を落とさないでください。

## 3 穂肥

分施肥系の場合は、以下を目安に穂肥を行います。1回目の穂肥は籾数の確保、2回目の穂肥は籾の充実に繋がります。

品種	出穂期 (目安)	穂肥1回目		2回目	
		時期	施用量 (kg/10a) NK7号	時期	施用量 (kg/10a) NK7号
元気つくし	8/20頃	8/2頃 (出穂18日前頃)	15	1回目の7日後	10
ヒノヒカリ	8/27頃	8/9頃 (出穂18日前頃)	20	なし	—
ツクシホマレ	9/5頃	8/15頃 (出穂21日前頃)	25	1回目の7～10日後	20

## 4 病害虫対策

ウンカ・コブノメイガの飛来は、7月3日頃から確認されています。現在、ほ場ではコブノメイガの食害葉が散見されており、秋に坪枯れを起こすトビイロウンカの発生は平年並です。

ウンカ・コブノメイガを対象とした防除適期は、8月17日～8月22日ごろになる、と予想されます。また、いもち病対策は出穂期ごろ、カメムシ類対策には穂揃期とその7～10日後ごろが最適です。

防除を行う際は、水を十分にためて、株元のウンカ類が稲体の上部に集まるようにし、防除効果の安定を図ります。

### <1回目防除> ※アプロード剤はトビイロウンカの感受性が低下しているため、スタークル剤と混用使用

品種（防除時期）	剤型	薬剤 (全品種とも粉・液いずれか)	希釈倍数 (使用量/10a)	適用 病害虫
元気つくし (8月9日～12日)	粉剤	アプロードモンカット スタークルF粉剤DL	3～4kg	ウンカ類・紋枯病 カメムシ類
ヒノヒカリ・ツクシホマレ (8月17日～22日)	液剤	アプロードロムガンモンカットエアー +スタークル顆粒水溶剤	750倍 2000倍 (水量100%)	紋枯病・ウンカ類・ コブノメイガ・カメムシ類

### <2回目防除> 出穂期～穂揃い期

品種（防除時期）	剤型	薬剤 (全品種とも粉・液いずれか)	希釈倍数 (使用量/10a)	適用 病害虫
元気つくし (8月17日～22日)	粉剤	ブラシントレボン粉剤DL	4kg	いもち病 ウンカ類 カメムシ類
ヒノヒカリ (8月25日～30日) ツクシホマレ (8月31日～9月5日)	液剤	ダブルカットフロアブル +トレボンEW	1000倍 1000倍 (水量100%)	

**!!注意!!ダブルカットフロアブルの農薬登録上の使用時期は『穂揃期まで』です!!**

防除を実施する際には、水稻の生育ステージに注意してください。

### <カメムシ類対策>

出穂14日前まで(8月上旬ごろまで)に水田周辺の除草を徹底し、カメムシのすみ処を無くしましょう。ただし、イネが出穂してからの除草は、カメムシ類の水田への飛び込みを助長するので行わないでください。

◎農作業時の熱中症に注意しましょう。こまめな休息と水分補給が大切です。  
◎農薬の安全使用と飛散防止対策を徹底しましょう!